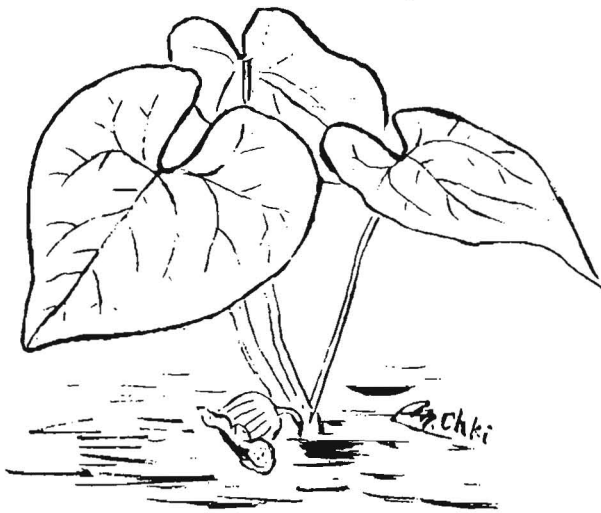


技術情報

No. 69
1988.11

長野県林業総合センター

信州の薬用植物



ウスバサイシン

Asiasarum Sieboldi F. Maekawa

適潤な森林の下に生育する夏緑の多年生草本で根をかむと辛いので、漢名では細辛（サイシン）と称する。

根を陰干しにして鎮痛、鎮咳、去痰、利尿剤として用いる。

一般には、ヒメギフチョウの食草として各地で保護されている。

林業総合センター 発足にあたって

林業総合センター所長
三原 康 義

造林の推進という大きな流れの中で、昭和36年以來、森林造成技術の開発に当たってきました林業指導所はその役割を果し、次の流れである県産材時代や、緑資源を主軸とした森林の各種機能の充実を確実なものにする使命を担って、林業総合センターがこの4月に発足しました。

この林業指導所から林業総合センターへの移り変わりでもっとも大きな特長は、森林を県民全体の資産としてとらえ、みんなで守り育てていくための啓発拠点としての役割を持ったことです。これは新しい試みであり、県民に親しまれる開かれた機関としての性格をより高めるものです。

経済、社会が成熟化するなかで、森林は公益的機能を発揮する場として県民の関心と期待が高まっていますが、これらを受けて県では新たに森林林業の長期構想を策定しました。この中で行政施策を支える技術開発目標として低コスト生産技術、木材利用技術、さらにはバイオテクなどの先端技術を挙げていますが、これらにかかわる研究対象の範囲は広く、専門分野が複雑多岐にわたっていることから、効率的に研究を推進するためには他の研究機関や民間企業と連携し、協調することが必要であり、そのような研究体制の確立を急がなければなりません。

林業総合センターは、山村の活性化を図るため、森林・林業・林産業に関する県の技術開発のかなめとして、さらに林業・林産業関係者の研修、一般県民への啓発活動など果さなければならない大きな責務を持っています。